令和４年５月16日

九州電気専門学校
校長　渡辺征夫　殿

学校関係者評価委員会
委員長　山本久信

学校関係者評価委員会報告

令和３年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
① 山本久信（福岡ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門学校　　広報部長）
② 池田良司（九州電力送配電㈱送変電本部　工務部長）
③ 末松義浩（㈱九電工　人事労務部長）
④ 八尋　茂（福岡電材㈱　代表取締役）

2　学校関係者評価委員会の開催
・令和４年４月８日（金）（会場　九州電気専門学校　301 教室）

3　学校関係者評価委員会報告
別紙のとおり

以　上

学校関係者評価結果

学校関係者評価委員会において、令和 3 年度自己評価報告書に関し、すべての項目において確認を行った。
評価委員会の主な意見は以下のとおりである。

（1）　教育理念・目標
・教育・理念の設定や周知については概ね達成していると評価。
（2）　学校運営
・第 6 項“教育活動等に関する情報公開が適切になされているか”についての課題提起及び改善方策が、“ｱﾝｹｰﾄ結果のフォローが必要であり主要な課題を確実に解消していく”となっているが、全てを解消するのは困難ではないか.
・アンケート結果に対する CA が十分でないため、メリハリのある PDCA サイクルへ取り組むこととしており、結果として課題の解消につなげたいと考えている。

・KEC だよりについては、内容に支障の無い範囲で近隣の公民館や関連企業等に配布してはどうか。公開講座や授業状況も含めるとよい。
また、電気になじみのない総合学科、商業系、農業科などへも送ったらよい。
・IoT を使った実験など授業の状況が理解しやすいようなリーフレットを検討してみる。

（3）　教育活動
・校外研修については、新型コロナ感染拡大のため止むを得ず中止とした。
（4）　学習成果
・カリキュラムの再検討は、どの学科を対象としているのか
・電気工学科を対象としている。工事士科は、養成校指定のカリキュラムに時間的余裕がないため、別途夏休み等を利用し第一種電気工事士を目指すこととしている。

・学力に応じた支援内容は、学力試験だけでなく個別支援も行うのか
・学力試験を踏まえ、本人がどこで躓いているか分析し、不十分な部分について個別支援を行う予定。

・公開講座の企業への周知はどのようにしているのか
・工事組合には周知しているが、企業には周知していない。

・昨年の課題でもあった、キャリア形成の効果確認のための情報収集については、同窓会としても連携して対応する必要があると考えている。
就職先企業への訪問など卒業後のフォローはどうか
・卒業生が国家資格取得のために学校へ卒業証明書等の申請を行うので、その際にすでに取得した資格についても情報を集めるようにしている。
企業訪問は現状、十分ではないので、今後検討し同窓会とも共有できるようにしたい。

(5)　学生支援

・定時制学生への支援体制が十分でないようだが、学生からの相談受付や回答への連絡はメールを使用していないのか、また講義の質問の受付や回答等に利用していないのか
・学校の KEC メールや個人電話を使用しているが、講義の質問に関してはなかなか学生からのアクションがない状況。
定時制は基本的にやる気があり授業態度も良いが、仕事に追われ質問する余裕があまりないかもしれない。

・定時制の学生は、仕事のレベルアップを目指しているのか、それとも再就職か
・新型コロナウイルスの影響で転職を考えている人もいれば、企業に勤めながらレベルアップを目指す人もいる。

・定時制への常勤の対応はどのような状況か。
・勤務シフトし常勤が週１、２回は講義をしているが、毎日ではない。
就職相談などは、夜間部の登校時間迄は対応しており、できるだけの支援を行っている。

(6)　教育環境

・設備の改修計画はどうのように考えているか
・実験の備品は補助金で対応し、PC 等は計画を立てて優先順別に計上している。
高圧実験室や学校の受電設備も改修が必要と考えているが、費用の問題もあり現状では具体的な策定ができていない。

・大学では PC 購入が必須でありオンライン授業等をやっている。また、板書もなくなりつつあり、ノートでなくＰＣで授業を受けているおり、デジタルの時代に沿った対応の検討も必要ではないか
久留米の専門学校では入学者全員にタブレットを渡しており、学生へはインパクトがあるようだ。ただし、費用は授業料他に入っている。
・当校は実習など対面授業を重視しており、PC 利用がどの程度の効果があるか十分な検討が必要と考えている。

(7)　学生の受入募集

・入学者の出身地に変化はあるか。

・昨年は 6 割が福岡及びその周辺であったが、今年は 5 割弱程度と減っており沖縄や他県が増えてきている。

(8)　財務

・経営安定のためには、どのくらいの入学者が必要と考えているか。

・80 名程度と考えている。

(9)　法令等の遵守

・PDCA は各部門で取り組んでいるが、まだ十分とはいえないと認識している。

(10)　社会貢献・地域貢献

・地域貢献等については、清掃活動などを行っているが、時間的制約もあり十分な時間がとりにくい。ボランティアの意味など机上検討も含め充実していきたい。

(11)　国際交流

・今年度の留学生受け入れはない。国の方針等状況を見ながら対応を検討する。

○　委員長総括

今回は、これまでより更にいい意見が出された。

まずは、国家試験合格者を増やすことが重要なので、それに向けて試験対策や保護者向けなどの情報公開を行うことが、最大の成果に繋がって行くものと思う。

以　上

学校関係評価表（令和３年度学校関係者評価委員会）

評　価　項　目	適切･･･4、　ほぼ適切･･･3 やや不適切･･･2、不適切･･･1	平　均　点　（昨年）
(1)教育理念・目標	4　3　2　1	4.0　(4.0)
(2)学校運営	4　3　2　1	3.5　(3.8)
(3)教育活動	4　3　2　1	3.5　(3.8)
(4)学修効果	4　3　2　1	3.5　(3.8)
(5)学生支援	4　3　2　1	3.3　(3.0)
(6)教育環境	4　3　2　1	3.3　(3.3)
(7)学生の受入れ募集	4　3　2　1	4.0　(3.8)
(8)財務	4　3　2　1	3.3　(3.8)
(9)法令等遵守	4　3　2　1	4.0　(4.0)
(10)社会貢献・地域貢献	4　3　2　1	3.5　(3.3)
(11)国際交流	4　3　2　1	3.0 ha (3.0)
総　　合	4　3　2　1	・(1)～(11)の平均 3.5(3.6) ・総合の平均　3.5(3.8)

（全体に対するコメント）

○全体的に前年度より様々なアプローチを試みており、100 周年に向け以下の検討をお願いする。
・授業内容におけるデジタル社会への対応取組は評価できる（AI,IoT,ロボットなど）
・学生の多様性（普通科、工業科、社会人等）及び学力に応じたクラス編成や授業形態の改善。
・企業と連携した授業、外部講師の積極的な採用及び資格取得率の更なる向上。
・授業評価結果のフィードバックをもっと深化させ、教員研修体制の更なる充実。
・夜間学生への細かな指導体制。
・学生募集が学校存続の大きな鍵であり、広報活動の更なる工夫と電気を学ぶ人材の裾野拡大も必要。

○コロナ禍で事業運営も苦労しながら適切に運用されている。

○総合的に PDCA サイクルを回しながら、適切に学校運営を行っている
・ｱﾝｹｰﾄを実施し、教育環境改善に取り組んでおり、その結果を「KEC だより」等でﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸしてはどうか
・学力判定試験等による学力に応じた支援により、国家資格合格者の増につながることを期待。
・厳しい経営状況の中で、段階的に設備投資を計画・実施していることは評価できる。

○一番には教育理念であり、すべての項目が理念に準じていなければいけない。
・教育活動では生徒の学力差に配慮し、対応研修や指導力育成、資質の向上、カリキュラムの見直し等実践的な職業教育に力を入れてほしい。
・卒業後のキャリア形成状況や学習効果の把握に力を入れてほしい。
・卒業生への支援や在校生への個別指導などの体制強化。
・設備の老朽化対応や教育用機器の充実を計画的に整えてほしい。